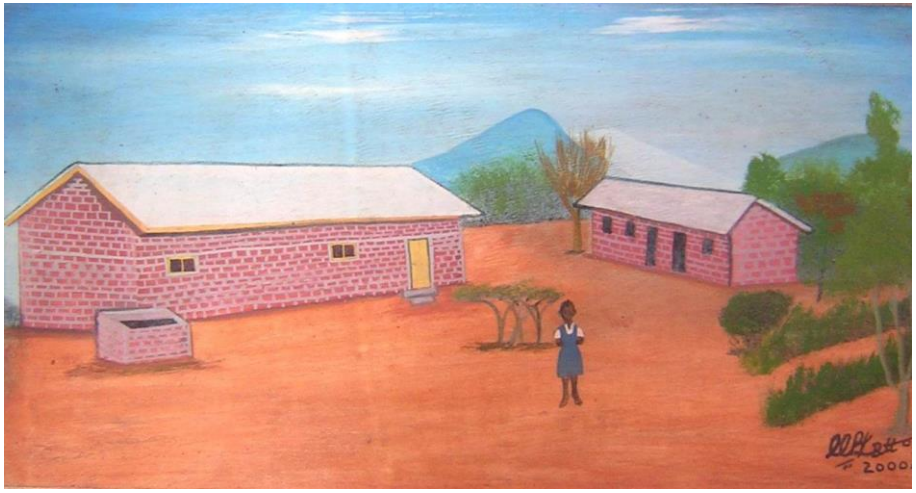
Community Action Development Organisation

キャン ドゥ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2018 年 6 月[第 83 号]



活動の方向性 **ケニアでの 20 年間の活動の経験をいかして マラウイで** 永岡 宏昌

ナイロビ便り **ナイロビ事務所を閉じました** 佐久間典子

ひと **インターンを終えて** 加藤 美奈／田中 克昌／篠原 和珠

新理事の自己紹介 國枝 信宏／鶴田 伸介

ケニアでの活動 2018 年 1 月～3 月 4 日

国内 2018 年度年次総会を開催しました

事務局から

絵は、2000 年、ケニア共和国東部州ムインギ県（現キツイ地方ムインギ東県）で建設が完了した教室
写真は、2016 年、マラウイ共和国パロンベ県の調査で訪れた小学校で

活動の方向性

ケニアでの 20 年間の活動の経験をいかして、マラウイで

代表理事 永岡 宏昌

当会は、1998 年からケニアで始めた、地域の大人たちが、自ら子どもの教育と健康を保障する意欲と能力を向上させるための社会開発の協力活動を 2018 年 3 月に完了しました。小学校では、保護者が自律的に教室を建設・補修する能力の向上、地域社会では、住民から選ばれた地域保健ボランティア(CHV)が住民へ保健知識を教え、実践を促す能力の向上、そして住民から CHV への信頼の醸成を目指しました。学校地域社会において、CHV が保護者へ保健知識を教え、学校保健活動の実践の形成など、自律的な発展を期待できる多くの成果が確認できました。

現在、ケニアでの経験をいかした社会開発活動をマラウイ南部で実施するため、日本人スタッフを派遣して、事業形成と当会の NGO 登録、事務所立ち上げなどに取り組んでいます。事業地と考えているパロンベ県では、雨が降ると授業ができない青空教室、床にくっつきあって座る込み合った教室など、深刻な教室の不足の問題があります。教育面では、低学年から始まる留年と中退による初等学校修了率の低さ、中等学校の不足の課題もあります。そして、HIV 陽性率の高さ、早期性交渉のリスク、雨期の浸水と公衆衛生上のリスクなど、ケニアで取り組んできた課題が、さらに深刻な形で存在しているようにみえます。一方、マラウイは平和な貧困国ということから、多くの援助が社会開発分野に投入されています。住民の援助への依存度合いは大変高く、ケニアと異なり、住民参加事業を実施するのは非常に難しいとの意見を聞きます。しかし、現場で観察する限り、初等学校に手厚い援助の歴史があったようにはみえません。また、この 2 年間、地域の行政官・初等学校関係者・住民との話し合いのなかで、ケニアの住民の抱える課題と当会の活動への反応そして変化を紹介すると、彼らの理解と共感が確認できます。ケニアではできても自分たちにはできない、という反応は少なく、子どもたちのために取り組んでみたい、との意見を多く聞きます。

援助依存体質で住民参加が難しいという意見が、支援金による事業形成の課題となっています。先行する形で具体的な活動を形成して、住民の本気度も支援機関に提示することが必要なようです。現在、当会の若干の蓄えを取り崩しながら、活動を展開していますが、新しい事業の形成に対して、みなさまからの賛同と支援をお願いします。

ナイロビ便り

ナイロビ事務所を閉めました

事務局長　佐久間 典子

ケニアにおける活動の完了とともに、3 月末、当会はナイロビ事務所を閉めました。4 軒目となる事務所兼宿舎でした。

1 軒目は、設立前の 1997 年 11 月に契約した、当時、周辺では珍しい、そびえ建つタワー風（？）マンションでした。手狭になったことから、2003 年 5 月に引っ越し。2 軒目では、電話回線の移設が大変で、「3 か月近く奔走して、ようやく『無線による地上回線』というものを取得できました」（会報 24 号）。

2007 年末からの選挙後暴動の後、2008 年 2 月、そこが主要野党連合の事務所に近かったことから、安全面を考えて引っ越します。ところが、2010 年 5 月、事務所に強盗が入るという事件が発生。また、引っ越しを検討しました。「治安の問題から、大通りに面していて、かつスラムから離れていること」が、広さや家賃とともに条件です。「物件探しは、3 か月半後の 9 月中旬になってようやく終わり」（会報 53 号）、結局、隣のブロックに移転しました。

そして 7 年半。最長の使用期間となった、この事務所兼宿舎を閉鎖する作業に参加するために、2018 年度年次総会が終わった 3 月 18 日の夜から 3 週間、4 回目で最後のケニア出張をしました。

3 月 20 日、事務所の毎月定額のインターネット接続サービスが終了して、それ以降は主に、閉鎖作業のために購入したスマートフォンの、他のパソコンがインターネットにつなげるようにできる機能で対応。料金の前払い用のカードが驚くほど早くなくなってしまい、東京との連絡が思うようにいかないことが頻発。最近は当然と思っていた利便性のありがたさを実感しました。

3 月 21 日、不用品を詰めたゴミ袋が 100 を超えるので、個別に業者に依頼して廃棄。この日以前、以降を合わせた総量は数えていません。

3 月 26 日、日本人会婦人部の方が古本と家具の一部をバザー用に回収。

3 月 27 日、不用の家具類を業者が回収。

3 月 28 日、譲与する家具類等をトラックに積んで、ケニア在住の高梨さん、橋場さん宅へ。橋場さん宅には、保管を依頼した書類も運びました。ケニアに残っている調整員、インターンと南のマチャコスに移って、業務。

4 月 3 日、調整員がナイロビに戻って鍵を大家さんに返却。

4 軒目は 1 軒目とも近所です。3 月 28 日、マチャコスに移動する朝、建物の外壁の老化を車から見て、この 20 年を思いました。

保護者が 2 教室目へ自ら進んでいこうとした時―

加藤 美奈

ケニアでは鳥のさえずりで朝起きるほど、それの音が大きい。しかしケニアに行ってから 1 か月はその音さえに気づかなかった。それほど一生懸命だった。大変な仕事環境と内容だった。同時に感じたのは、大変さに比例するのが学びの深さや成長の度合いだということだ。私が担当した施設拡充の業務では、1 教室は小学校の保護者が教室の補修活動に意欲的でない中、どうにか補修を完成してもらう。彼らが達成感や良い変化を実感することで意欲的に 2 教室目へと自ら進んでいこうとした時は、自分たちの力で生活をより豊かにできる能力の大切さを実感した。

日本に今いる自分はモノに不自由ない環境にいるが、ありがたみをもっと実感するため、そして自分の生活をより豊かにしようと、学費を自身で賄うことを決意した。2017 年 9 月から 2018 年 3 月までの CanDo で過ごした半年間は、人生で一番長く感じたと同時に、その毎日が自分の考えを強く、豊かなものにしてくれた。

行かなくては知りえない国際協力の現場

田中 克昌

ケニアで過ごした 2017 年 11 月から翌年 2 月までの約 3 か月は、これまでに経験したことのない出来事の連続でした。村での人々の暮らしや、中々進まない山のような仕事…。現地に行かなくては決して知りえないケニアや国際協力の現場を知ることができました。

私がインターンに応募したのは、これまで勉強してきた開発協力を、より現地の人々の近くで見てみたい、そしてささやかながら何か自分に出来ることがないかと思ったからです。保健チームの一員として働いた 3 か月は決して楽ではありませんでした。ケニア人スタッフや行政官、住民、日本人のスタッフとインターン、一つの目標に向かいながらも、各々がさまざまな立ち位置を持つ中で、プロジェクトを前に進めるのは非常に難しいことでした。しかし、その経験は他では決してしえない貴重なものとなりました。

この経験を糧に、世界が抱える問題にどのように自分が向き合うかを考え、行動し続けていければと思っています。

多くの仕事を任せてもらえているという誇り

篠原 和珠

2017 年 11 月末から 4 か月間、保健担当のインターンを行った。インターンを開始した当初は事業についてや業務の詳細を理解するのに必死で、他のインターン生やスタッフにこれでもかとたくさんの迷惑をかけてきた。事業に対する理解不足により、マシンガ県保健局との話し合いで重大なミスをしてしまったこともあった。こんなにも自分の不甲斐なさを感じたことはなかった。毎日まいにちさまざまなトラブルが起こったり、ケニア人スタッフとの間に軋轢が生じたり、日々のストレスと疲れは相当なものだった。それでもインターンをがんばることができたのは、いつも励ましてくれたインターン生の存在と、多くの仕事を任せてもらえているという誇りがあったからだ。全力で仕事をしてきたこの 4 か月間でおこったすべてのことを忘れることはないだろうし、今後なにをするにしても CanDo のインターンで経験したことが自信につながっていくことを私は確信している。

1999 年 10 月に最初のインターンをケニアに派遣してから 18 年半―105 人がインターンを修了しました

CanDo が設立された 1998 年は、大学生 2 人がボランティアとしてケニアの活動に参加しました。翌年から、インターンとして公募を行なって、派遣。2004 年に 6 か月の研修期間で複数を派遣するインターン制度を取りました。

引き継ぎ期間をとって、常時 3 人が活動できるようインターンを派遣し、2018 年 3 月まで、105 人がインターンを修了しました。活動地では、施設拡充、環境活動、保健活動のいずれかを担当。ナイロビ事務所の総務関係の業務補佐の割合が多い人もいます。

目的とした国際協力の人材育成という点からみると、105 人のうち 34 人が、NGO や JICA、国際機関の仕事に関わり、うち 2 人はアフリカの国で活動を行なう NGO を立ち上げました。また、13 人が青年海外協力隊員として活動。そして、1 人がアフリカ関係で起業をしています。

＊ウェブサイトのインターン制度のページで 14 人の「振り返り作文」を掲載していますので、ぜひ、お読みください。
http://www.cando.or.jp/intern_2.htm

ひと　新理事の自己紹介

20 年前、ナイロビ駐在員として立ち上げに奔走

國枝　信宏

今からちょうど 20 年前、私は CanDo ナイロビ事務所の駐在員として、現地法人と事業の立ち上げに奔走していました。そして現スタッフの皆さんは、国を移してマラウイで新たなページを開こうと挑戦しています。マラウイでも「より豊かな社会の実現」に向けて着実に活動が進められるよう、CanDo の今とこれからを担うスタッフの皆さんを応援していく所存です。

CanDo スタッフだった頃からその後は国際協力コンサルタントとして、アフリカ各地で保護者や地域住民が主体となる地域開発や教育改善を応援してきました。そして最近になって 2 年間、我が子の通う東京都内の公立中学校でPTA会長を経験し、当事者として地域参加による教育改善について学ぶ機会に恵まれました。アフリカと日本にはそれぞれに特有の背景や課題があるものの、地域不在の課題解決があり得ない点は共通しています。とことん地域に向き合って活動に取り組む CanDo の現場から今後も知恵をもらいつつ、日本との接点も模索していけたらと思っています。

低所得の国々にかかわってきたけれど

鶴田　伸介

4 月 1 日付で理事を仰せつかりました鶴田伸介と申します。1976 年から 2 年間青年海外協力隊員としてマラウイのマンゴチ中等学校で理数科教師を務めました。人手不足時には体育や女生徒の伝統舞踊団監督も兼任しました。以降の大部分の期間は（株）地域計画連合社員として主に JICA 調査に従事しました。

世界銀行によると 81 年までは中国の国内総生産／人口はマ国を下回っていましたが 16 年には 14 倍以上です。その間マ国のこの指標の年間成長率は 0.7%で低所得の罠にとらわれているようです。経済指標がすべてではなくマ国の良さはいっぱいありますが困ったものである事は確かです。にもかかわらず「では自分たちはどうしたらいいのですか」ときかれても私は満足に答えられません。これが私の問題意識です。

アフリカの生活向上に貢献する CanDo の活動のお手伝いをするのは嬉しい事です。寄付文化の乏しい日本での活動は難しいと思いますが、どうぞよろしくお願い申しあげます。

（絵は知り合いの作品）

ケニア共和国マチャコス地方マシンガ県での活動—2018 年 1 月～3 月 4 日

◆小学校で

◇保護者の学校運営能力向上と施設拡充—教室の構造補修—: 1 月に 4 校、2 月に 6 校で床仕上げの工程まで進みました。

◇地域保健ボランティア（CHV）による学習会の支援: 保護者を対象として、乾燥野菜の学習会が 1 月に 10 校、2 月に 9 校で開催。2 月、早期妊娠予防がのべ 10 校、子どもの保護 3 校、衛生・栄養・子どもの発達、エイズを各 2 校で開催。2 月、子どもを対象としたエイズ、早期妊娠予防の学習会を各 2 校、2 つを合わせて 1 校で開催されました。

◆地域で

◇地域保健ボランティア（CHV）育成: 育成研修の修了証授与式が、1 月、ミクユニ地域保健単位（CHU）とカトゥリエ CHU で、2 月に 8 つ目のムシンギニ CHU で実施されました。

◇CHV への追加研修と CHV による学習会の支援: 1 月に乾燥野菜の研修を 2 つの CHU で実施。CHV が学んだ内容を住民に伝える学習会は、1 月にエイズ学習会が 2CHU、早期妊娠予防、子どもの保護の学習会が各 1CHU で行なわれました。

◇地域保健普及官（CHEW）への研修: CHV を指導する CHEW は公衆衛生官と看護官が兼任。2 月、延期されていた新任の看護官に対する研修（5 日間）とそれ以外の CHEW 対象の再研修（3 日）を実施しました。

◆評価と監査

1 月に JICA 草の根協力事業の終了時評価、2 月、外務省日本 NGO 連携無償資金協力の外部監査が行なわれました。

お詫び　会報 82 号「総会資料号」で乾燥野菜の研修について誤りがありました。2017 年度報告を 6CHU、2018 年度計画を 2CHU に訂正します。

国内　3 月 18 日、2018 年度年次総会を開催しました

3 月 18 日、汐見地域活動センターで 2018 年度年次総会を開催しました。一般会員 30 人が出席—うち書面表決 8 人、表決委任 11 人—、一般会員 51 人の 3 分の 1 以上という定足数を満たして成立。加藤明彦さんが議長を務めて、第 1 号議案から第 4 号議案まで審議を行ないました。

2017 年度活動報告・会計報告が承認されました。2018 年度役員として、理事 8 人、監事 1 人、準理事 2 人が選任されました—理事…井本佐保里、佐久間典子、永岡宏昌、中沢和男、藤目春子、明城徹也（以上、再任）、國枝信宏、鶴田伸介（以上、新任。p.6 参照）／監事…加藤志保（再任）／準理事…國枝美佳（新任。現理事）、満井綾子（再任）。

定款第 54 条（公告の方法）の変更—貸借対照表についてはホームページで行なう—、2018 年度活動計画・予算が承認されました。

終了後、第 2 回理事会を開き、代表理事に永岡が選任されました（再任）。

事務局から

報告

◇組織

○3 月 18 日、汐見地域活動センターで 2018 年度第 1 回理事会を開催。2018 年度年次総会の議案―うち予算案については修正―および給与改定案を承認。同日、年次総会と終了後に第 2 回理事会を開催（p.7 参照）。

◇支援

○2 月 28 日、（独行）国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業（パートナー型）「ケニア共和国マチャコス地方マシンガ県マシンガ郡キバー区・マシンガ区での住民の基礎教育を通じた参加型子どもの健康・教育保障事業」が完了（実施期間は、後期を 5 か月延長して 4 年 5 か月）。

○3 月 4 日、外務省日本 NGO 連携無償資金協力「マシンガ準郡子どもの健康と安全を保障する学校地域社会の改善事業　第 3 年次」が終了して完了（実施期間は 3 年）。

○5 月 2 日、外務省 NGO 海外スタディ・プログラム覚書を締結。マラウイの Beehive での研修に事務局員　飯野ちひろを派遣。

◇人の動き

○3 月 4 日、宇野由紀信を調整員（短期）としてケニア・マラウイに派遣。4 月 7 日、調整員（長期）に昇格。

○3 月 8 日、調整員（短期）井町友香がケニアから帰国。

○3 月 21 日、インターン　加藤美奈が研修期間を終了してケニアから帰国。

○3 月 14 日、代表理事（兼　事業責任者）永岡宏昌がケニアから帰国。

○3 月 18 日～4 月 8 日、事務局長　佐久間典子がケニアに出張。

○3 月 30 日～4 月 8 日、永岡がマラウイに出張。

○4 月 1 日、インターン　瀬田麻美子が研修期間を終了して、ケニアから帰国。3 日、インターン　篠原和珠が研修期間を終了して、ケニアを出発。

○4 月 6 日、調整員（短期）大門志織がケニアから帰国。5 月 19 日、調整員（長期）に昇格。

○5 月 30 日、飯野がマラウイに出発。

○5 月 30 日～6 月 10 日、永岡がケニア・マラウイに出張。

お知らせ

■**6 月 26 日、JICA 東京主催　事業完了報告会が開かれます**―15:00～16:30、会場は JICA 東京国際センター　別館セミナールーム C,D。詳細は次のウェブサイトをご覧ください。
https://www.jica.go.jp/tokyo/event/2018/ku57pq00000j3f3y.html

CanDo アフリカ [第 83 号]　2018 年 6 月 21 日発行
発行人:　永岡宏昌　編集人:　佐久間典子
発行:　特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001　東京都台東区谷中 2-9-14 第 2 森川ビル B 号室
電話:　03-3822-1041
電子メール:　tokyo@cando.or.jp
ウェブサイト:　http://www.cando.or.jp/
郵便振替:　口座番号 00150－2－15129　加入者名 アフリカ地域開発市民の会